

株式会社椿本チエイン

2023年3月期 第2四半期決算報告

<アジェンダ>

説明内容	説明者	予定時間
・ 2023年3月期 第2四半期決算報告 ・ トピックス	代表取締役社長 木村 隆利	35分
・ 質疑応答	社長、各事業統括、 財務担当役員	25分

2022年11月18日

2023年3月期 第2四半期連結業績報告

1. 23年3月期2Q比¹⁾ 連結決算ハイライト

3

- チェーン事業の好調、円安による為替換算増加により増収増益。
ただし、原材料や部品価格の高騰等により、営業利益率は低下。

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	予想比（5月11日公表）	
	第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
売上高	102,518	118,933	16.0%	117,000	1.7%
営業利益	8,185	8,375	2.3%	8,600	-2.6%
営業利益率	8.0%	7.0%		7.4%	
経常利益	9,156	9,889	8.0%	9,200	7.5%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	6,624	6,756	2.0%	6,800	-0.6%
1株当たり四半期純利益	178.96円	182.49円		183.69円	—
（為替レート 1USD）	109.81円	134.04円		120.00円	—
（為替レート 1EUR）	130.88円	138.77円		135.00円	—
（為替レート 1RMB）	16.66円	18.96円		18.90円	—

2. 23年3月期2Qレビュー- 事業セグメント別業績

4

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	予想比（5月11日公表）	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	35,348	43,609	23.4%	38,000	14.8%
	営業利益	5,142	6,285	22.2%	5,400	16.4%
	営業利益率	14.5%	14.4%		14.2%	
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	9,539	10,886	14.1%	11,000	▲ 1.0%
	営業利益	426	745	74.5%	700	6.4%
	営業利益率	4.5%	6.8%		6.4%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	32,420	36,429	12.4%	38,000	▲ 4.1%
	営業利益	3,648	2,375	▲ 34.9%	3,200	▲ 25.8%
	営業利益率	11.3%	6.5%		8.4%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	25,334	28,066	10.8%	30,000	▲ 6.4%
	営業利益	▲ 221	▲ 74	—	300	—
	営業利益率	—	—		1.0%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	1,338	1,477	10.4%	1,000	47.7%
	営業利益	▲ 222	▲ 265	—	▲ 300	—
	営業利益率	—	—		—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

3. 23年3月期2Q比¹⁾ 所在地別業績

5

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比
		第2Q実績	第2Q実績	増減率
米 州	売上高 ^{※注}	27,778	37,731	35.8%
	営業利益	1,555	1,535	▲ 1.3%
	営業利益率	5.6%	4.1%	
欧 州	売上高 ^{※注}	11,904	14,699	23.5%
	営業利益	545	644	18.0%
	営業利益率	4.6%	4.4%	
環インド洋	売上高 ^{※注}	8,329	9,678	16.2%
	営業利益	1,201	1,143	▲ 4.8%
	営業利益率	14.4%	11.8%	
中 国	売上高 ^{※注}	9,693	10,619	9.6%
	営業利益	641	599	▲ 6.5%
	営業利益率	6.6%	5.6%	
韓国・台湾	売上高 ^{※注}	5,147	5,362	4.2%
	営業利益	219	184	▲ 16.3%
	営業利益率	4.3%	3.4%	
日 本	売上高 ^{※注}	56,402	58,723	4.1%
	営業利益	3,796	3,629	▲ 4.4%
	営業利益率	6.7%	6.2%	

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

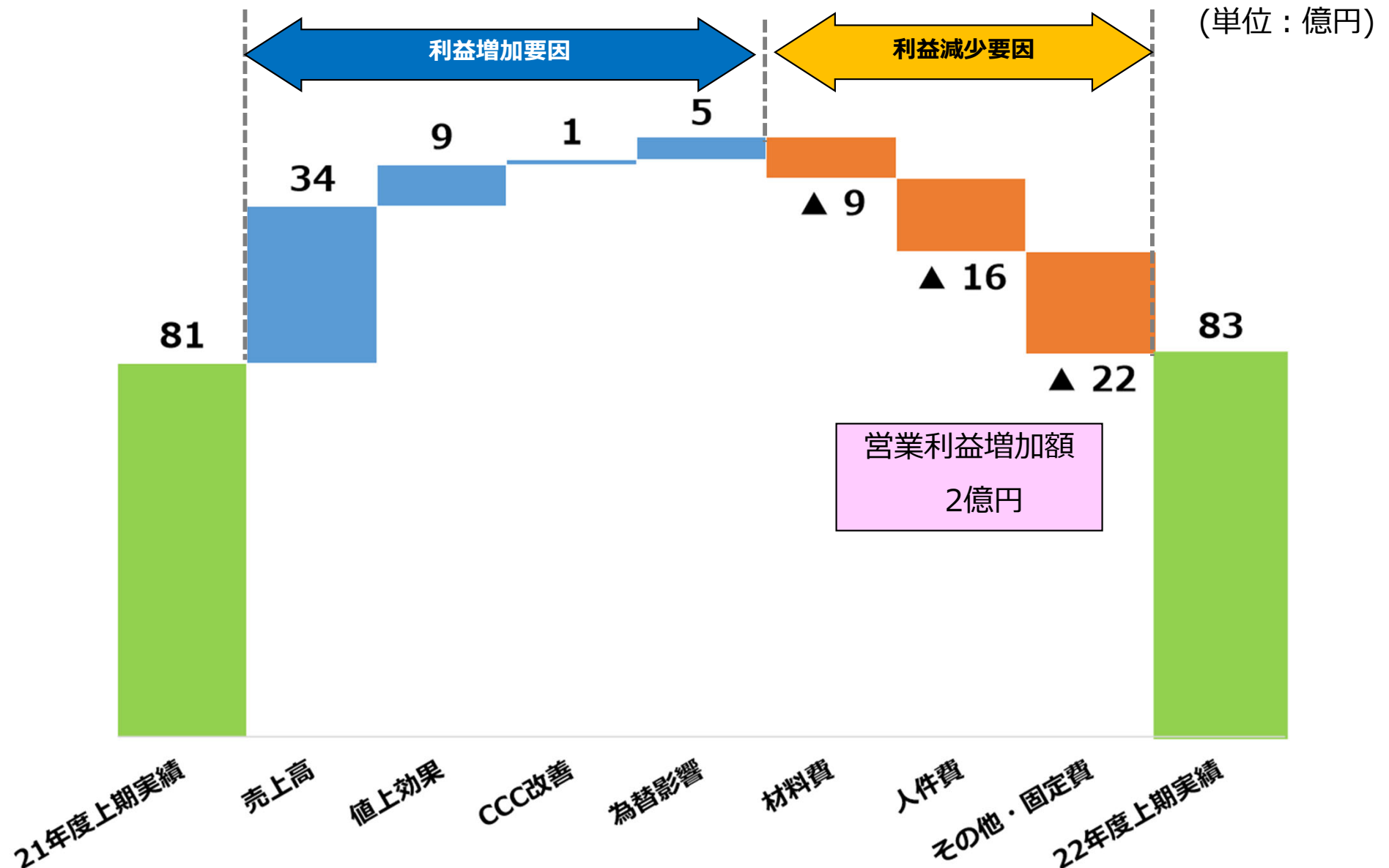
＜主な実績レート＞

(単位：円)

	USD	EUR	CAD	AUD	THB	TWD	RMB	KRW	MXN
22/3上期	109.81	130.88	88.30	82.61	3.50	3.92	16.66	0.10	5.34
23/3上期	134.04	138.77	103.85	93.60	3.65	4.47	18.96	0.10	6.08

4. 23年3月期2Q比¹⁾- 連結営業利益増減要因分析 6

■ 2022年3月期上期実績 vs 2023年3月期上期実績



5. 23年3月期2Qレビュー- 事業セグメント別業績

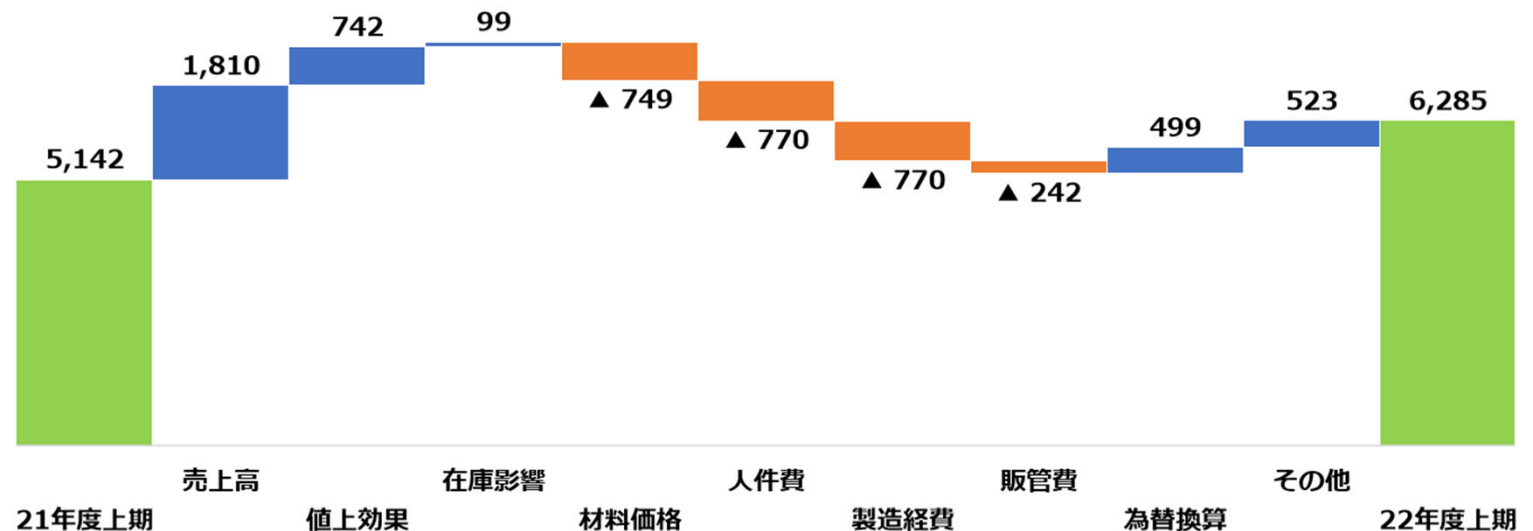
〈チェーン〉 7

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
チェーン	売上高※注1	35,348	43,609	23.4%	38,000	14.8%
	営業利益	5,142	6,285	22.2%	5,400	16.4%
	営業利益率	14.5%	14.4%		14.2%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・ 日本、米州、欧州、環インド洋における需要好調により増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- ・ 日本および米国での販売好調により増収。コスト削減にも引き続き注力した結果、増益。

5. 23年3月期2Qレビュー- 事業セグメント別業績

〈MC〉

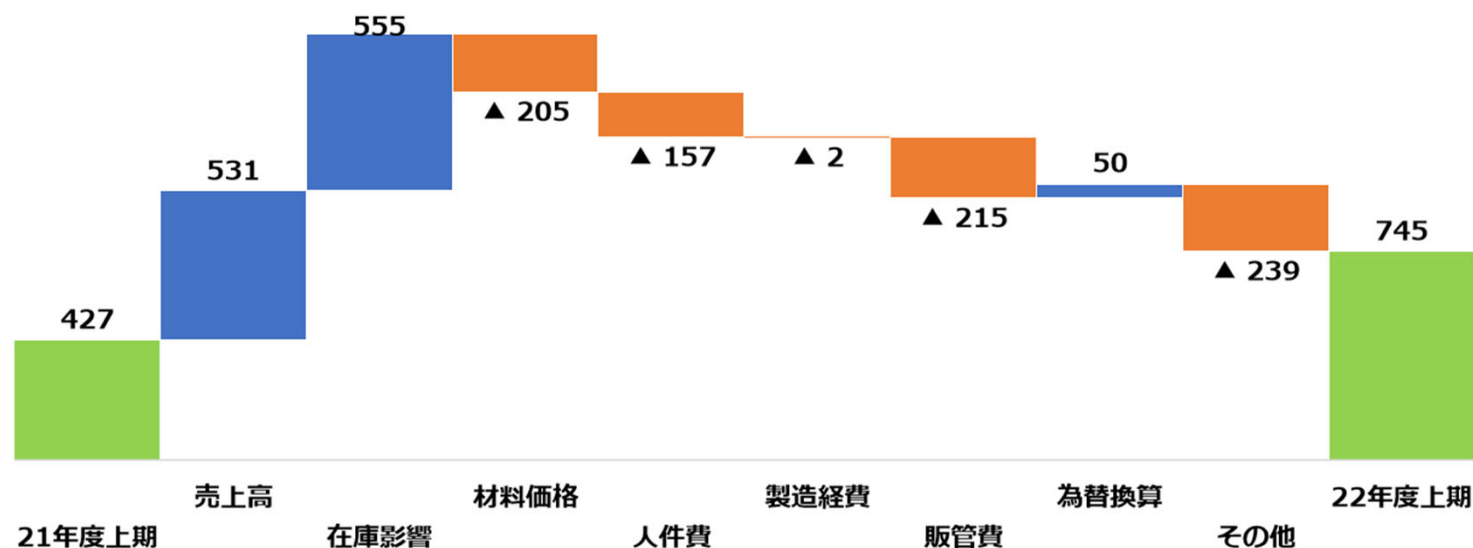
8

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	9,539	10,886	14.1%	11,000	▲1.0%
	営業利益	426	745	74.5%	700	6.4%
	営業利益率	4.5%	6.8%		6.4%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・ 韓国・台湾をのぞくすべての地域において、増収・増益。

〈5/11公表予想比〉

- ・ 特に日本で部品調達に苦慮し、売上高未達も、利益は確保。

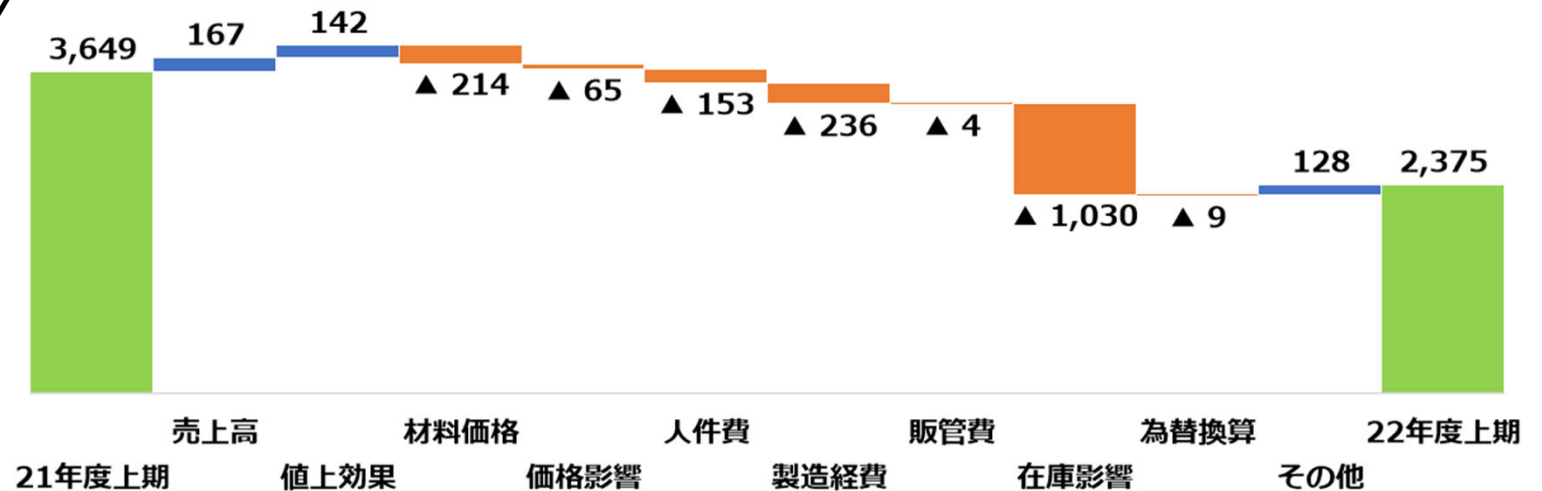
5. 23年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績 〈モビリティ〉 9

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
モビリティ	売上高 ^{※注1}	32,420	36,429	12.4%	38,000	▲4.1%
	営業利益	3,648	2,375	▲34.9%	3,200	▲25.8%
	営業利益率	11.3%	6.5%		8.4%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- 自動車生産台数の減少、中国の上海ロックダウン影響により苦しい状況ながらも、米州、欧州、韓国は需要改善により増収。利益は原材料価格などコスト上昇により減益。

〈5/11公表予想比〉

- 前年同期比と同じく、自動車生産台数が想定より伸びず減収。コスト高により減益。

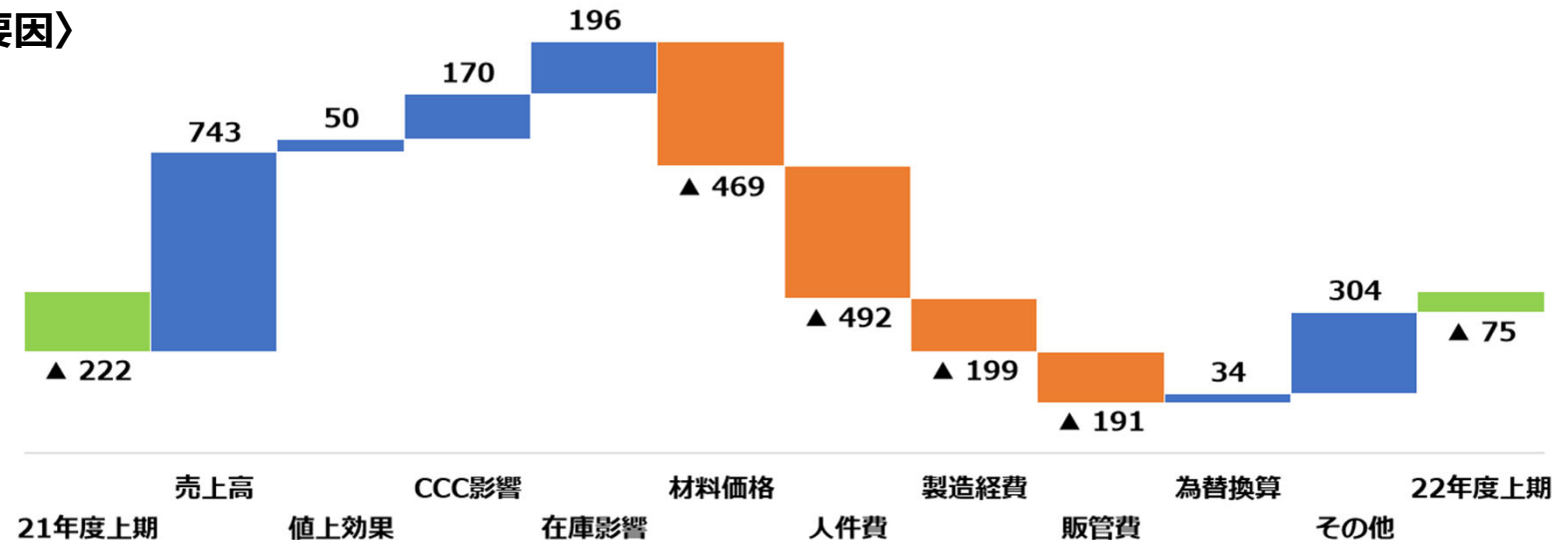
5. 23年3月期 2Qレビュー- 事業セグメント別業績 〈マテハン〉 10

※注1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期	前年同期比	業績予想比	
		第2Q実績	第2Q実績	増減率	予想値 (5/11)	増減率
マテハン	売上高 ^{※注1}	25,334	28,066	10.8%	30,000	▲6.4%
	営業利益	▲ 221	▲ 74	—	300	—
	営業利益率	—	—	—	1.0%	—

〈営業利益の増減要因〉



〈前年同期比〉

- ・日本での物流業界向け、米国での自動車業界向けシステムの減少はあるものの、日本・米州・欧州における金属切り屑搬送・クーラント処理装置の売上増加により増収、損失額は圧縮。

〈5/11公表予想比〉

- ・日本での物流業界向けの減少等により減収・減益。

2023年3月期 連結業績予想

- チェーン事業の好調持続、円安効果はあるものの、コスト上昇圧力も強く、当初予想を据え置き

(単位：百万円)

	2022年3月期	2023年3月期			前期比
	通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
売 上 高	215,879	118,933	121,067	240,000	11.2%
営 業 利 益	17,842	8,375	11,625	20,000	12.1%
営業利益率	8.3%	7.0%	9.6%	8.3%	
経 常 利 益	20,045	9,889	10,711	20,600	2.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,543	6,756	8,144	14,900	2.5%
1株当たり当期純利益	392.88円	182.49円	220.01円	402.50円	—
(為替レート 1USD)	112.40円	134.04円	140.00円	137.02円	—
(為替レート 1EUR)	130.55円	138.77円	140.00円	139.39円	—
(為替レート 1RMB)	17.04円	18.96円	20.00円	19.54円	—

7. 23年3月期 事業セグメント別業績予想

13

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期			前期比
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	増減率
チェーン	売上高 ^{※注1}	74,174	43,609	43,891	87,500	18.0%
	営業利益	11,005	6,285	6,715	13,000	18.1%
	営業利益率	14.8%	14.4%	15.3%	14.9%	
モーション コントロール	売上高 ^{※注1}	19,906	10,886	10,114	21,000	5.5%
	営業利益	1,129	745	955	1,700	50.6%
	営業利益率	5.7%	6.8%	9.4%	8.1%	
モビリティ	売上高 ^{※注1}	66,027	36,429	39,571	76,000	15.1%
	営業利益	6,568	2,375	3,925	6,300	▲4.1%
	営業利益率	9.9%	6.5%	9.9%	8.3%	
マテハン	売上高 ^{※注1}	55,728	28,066	29,734	57,800	3.7%
	営業利益	799	▲ 74	574	500	▲37.4%
	営業利益率	1.4%	—	1.9%	0.9%	
その他 ^{※注2}	売上高 ^{※注1}	3,074	1,477	1,223	2,700	▲12.2%
	営業利益	▲ 442	▲ 265	▲ 135	▲ 400	—
	営業利益率	—	—	—	—	

※1：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

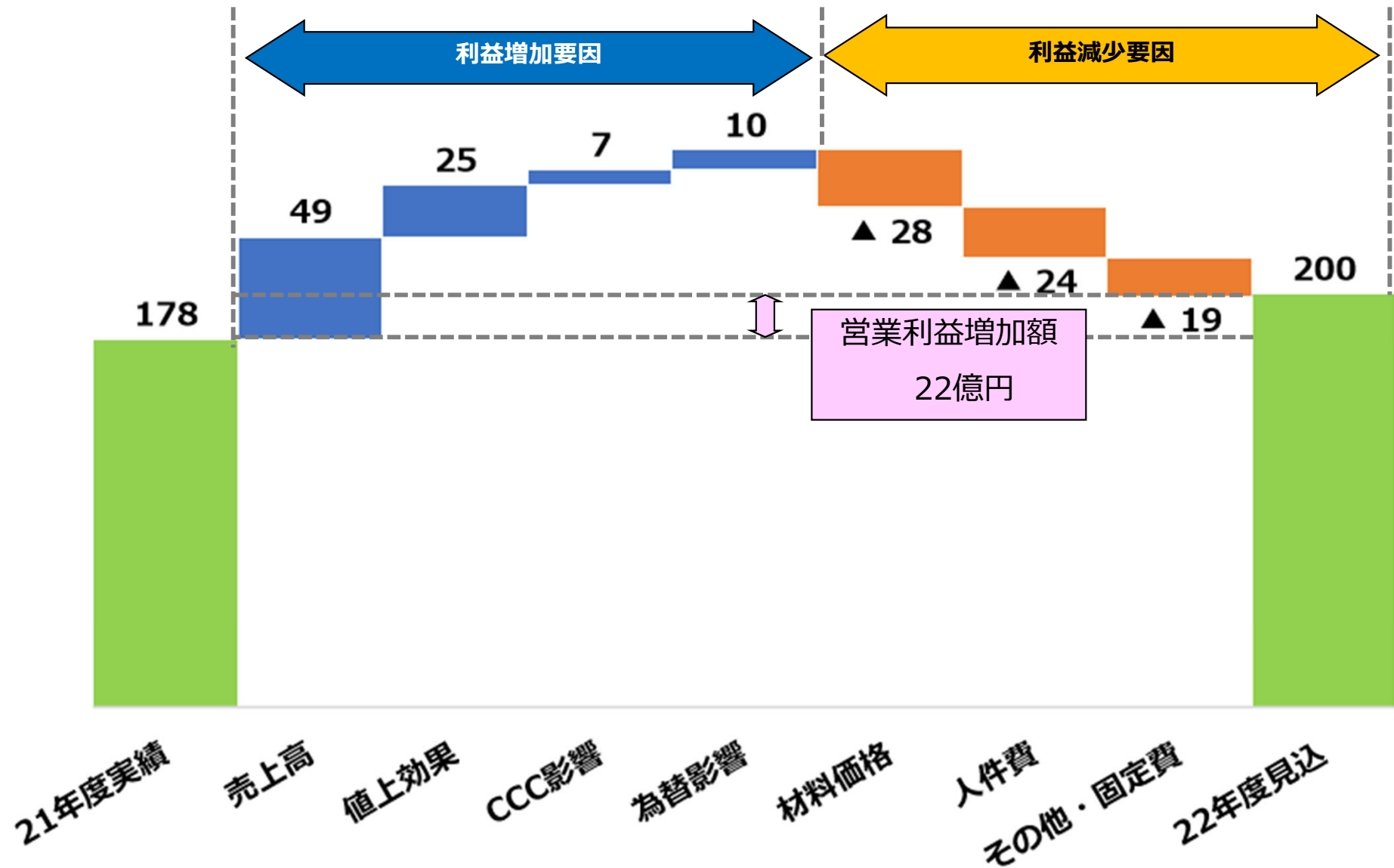
※2：「その他」は、報告セグメントではありません。

8. 23年3月期 連結営業利益増減要因分析

14

■ 2022年3月期実績 vs 2023年3月期予想

(単位：億円)



9. 23年3月期 事業セグメント別業績予想

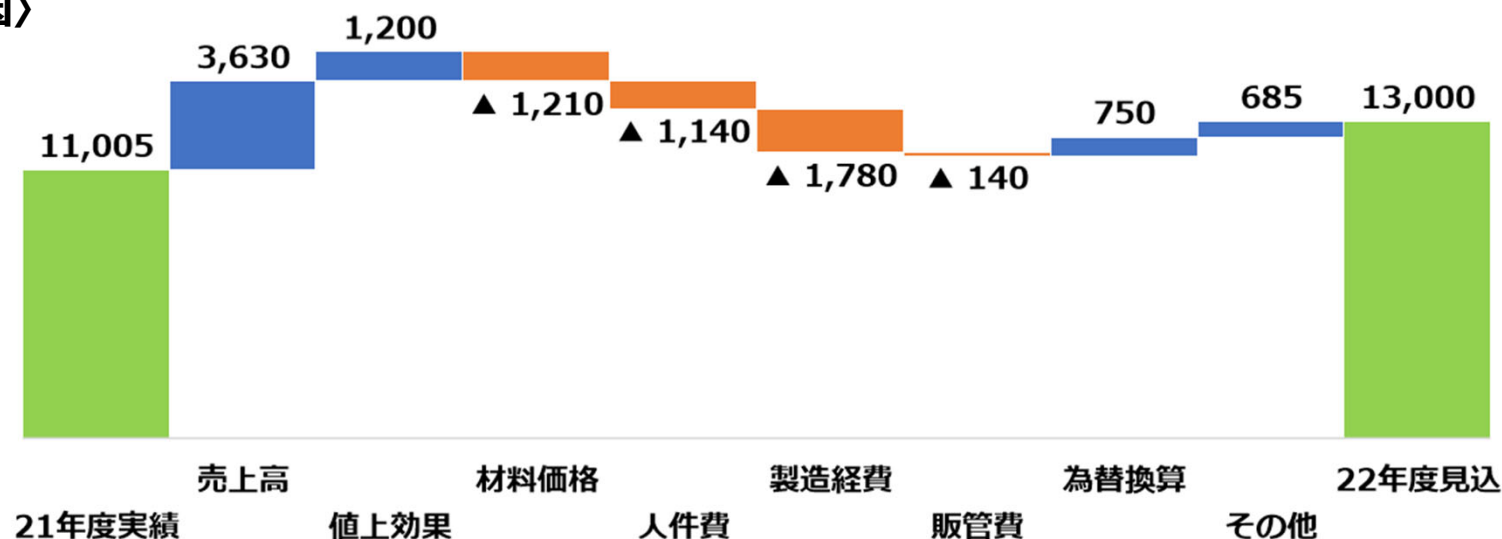
〈チェーン〉 15

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	通期予想対比
チェーン	売上高※注1	74,174	43,609	43,891	87,500	18.0%	76,000	15.1%
	営業利益	11,005	6,285	6,715	13,000	18.1%	10,500	23.8%
	営業利益率	14.8%	14.4%	15.3%	14.9%		13.8%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・下期は需要がやや落ち着くものの、日本、米州を中心に好調を維持。増収増益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

- ・各種コストの増加はあるものの、売上増、値上げ効果などにより、売上高、利益とも上方修正。

9. 23年3月期 事業セグメント別業績予想

〈MC〉

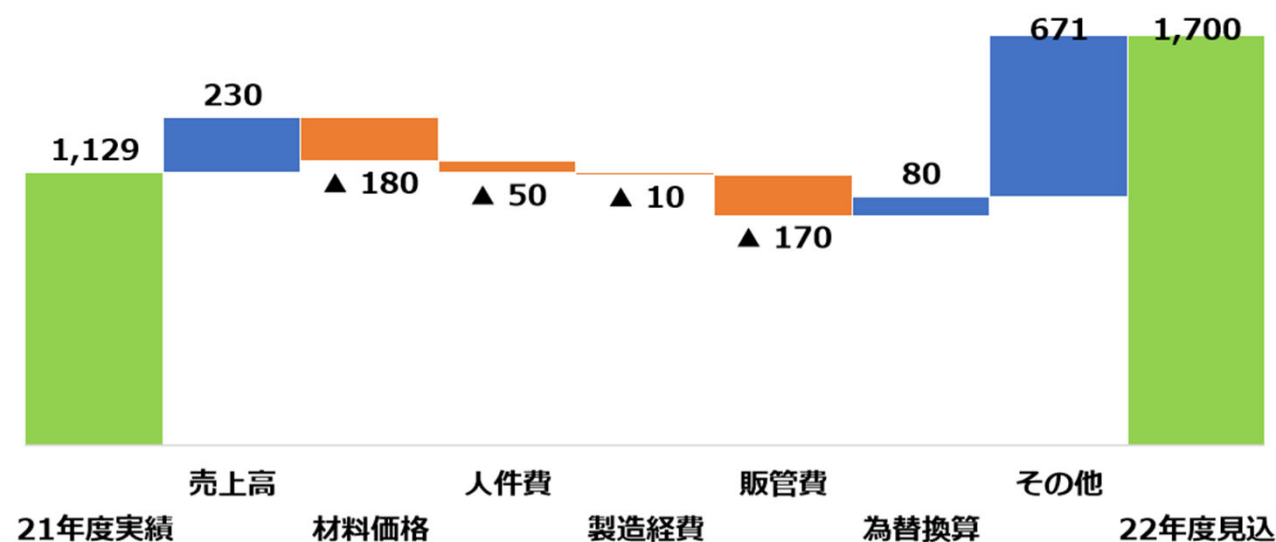
16

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	通期予想対比
モーション コントロール	売上高※注1	19,906	10,886	10,114	21,000	5.5%	23,000	▲8.7%
	営業利益	1,129	745	955	1,700	50.6%	2,000	▲15.0%
	営業利益率	5.7%	6.8%	9.4%	8.1%		8.7%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・ 足元の受注状況等より下期は前年同期比で減収、ただし通期では増収を見込む。
利益面でも、生産改善、値上げ効果などにより増益を予想。

〈5/11公表予想比〉

- ・ 下期も部品調達問題が影響を及ぼすと予想し、売上高、利益とも下方修正。

9. 23年3月期 事業セグメント別業績予想

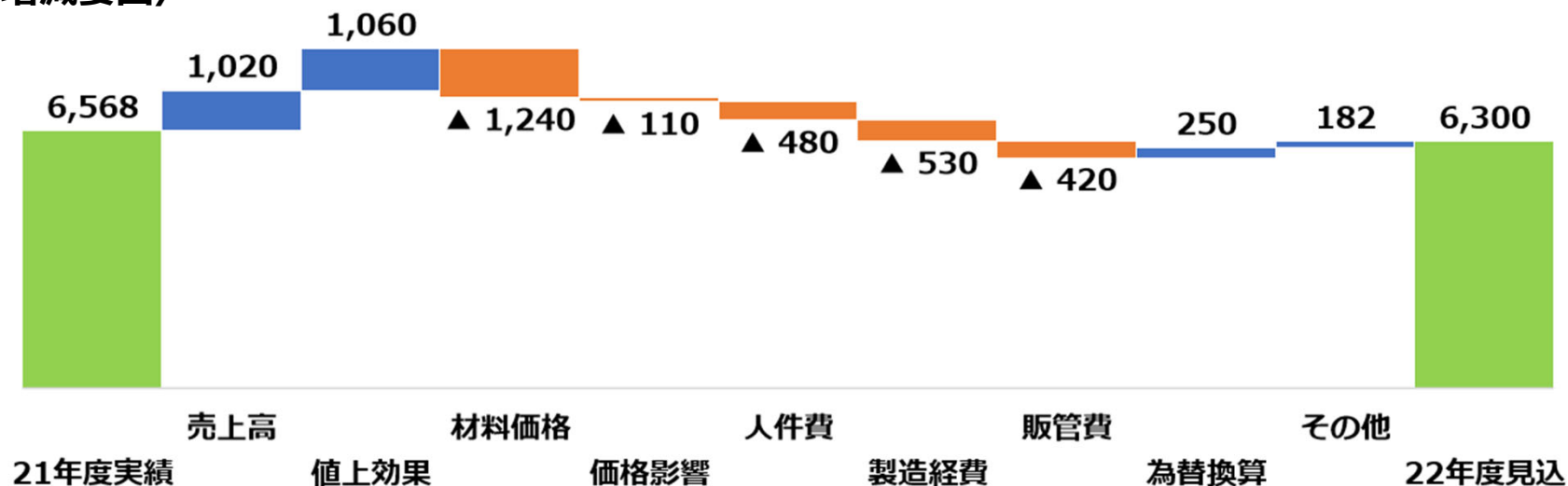
〈モビリティ〉 17

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	通期予想対比
モビリティ	売上高 ^{※注1}	66,027	36,429	39,571	76,000	15.1%	78,000	▲2.6%
	営業利益	6,568	2,375	3,925	6,300	▲4.1%	7,800	▲19.2%
	営業利益率	9.9%	6.5%	9.9%	8.3%		10.0%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・前期比では、自動車販売台数が増加すると想定。増収を見込む。
鋼材や樹脂、エネルギー価格の上昇を価格転嫁でカバーしきれず、減益を予想。

〈5/11公表予想比〉

- ・上期の自動車生産不振の影響により、売上高をやや下方に修正。
各種コストの増加などの影響が大きく、利益も下方修正。

9. 23年3月期 事業セグメント別業績予想 〈マテハン〉

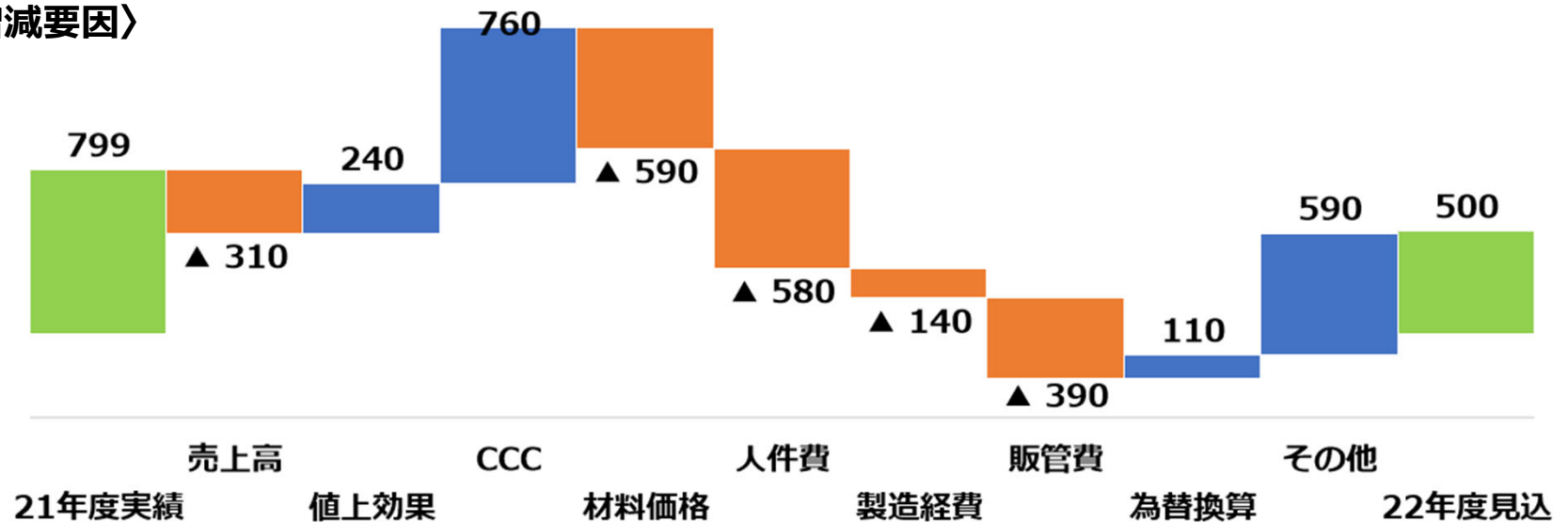
18

※注：売上高の数値には、「セグメント間の内部売上高又は振替高」を含みます。

(単位：百万円)

		2022年3月期	2023年3月期				5/11予想	
		通期実績	上期実績	下期予想	通期予想	前期比	金額	通期予想対比
マテハン	売上高 ^{※注1}	55,728	28,066	29,734	57,800	3.7%	64,000	▲9.7%
	営業利益	799	▲74	574	500	▲37.4%	1,600	▲68.8%
	営業利益率	1.4%	▲0.3%	1.9%	0.9%		2.5%	

〈営業利益の増減要因〉



〈前期比〉

- ・日本および北米での自動車業界向けシステム、日本での物流業界向けシステムの売上減などにより減収減益を見込む。

〈5/11公表予想比〉

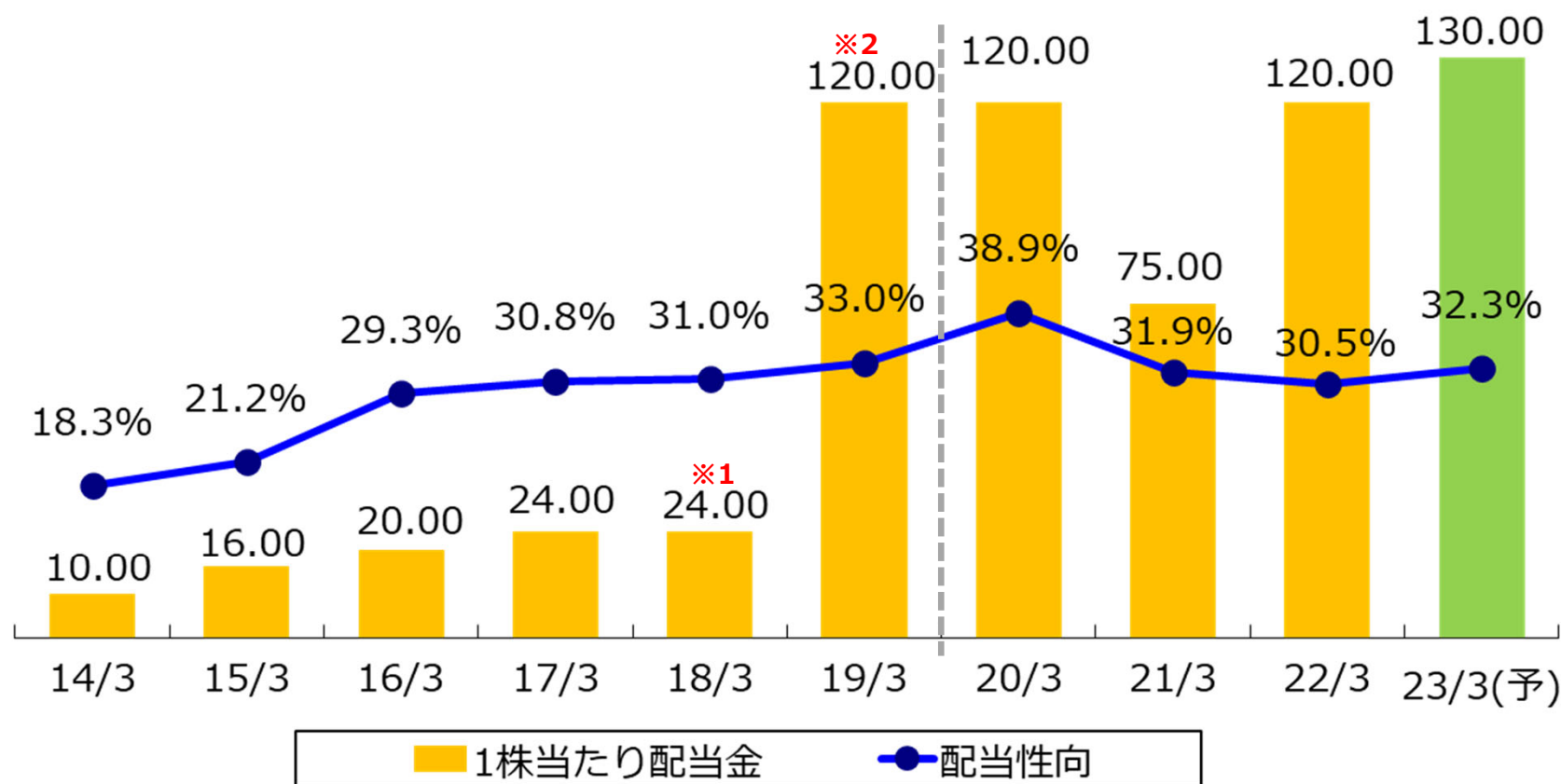
- ・今期売上案件の受注状況を鑑み、売上高、営業利益とも下方修正。

■ 配当方針

- ・ 連結業績を反映した配当を基本方針とし、
連結配当性向30%を基準とした利益配分を目指す。

< 1株当たり配当金、連結配当性向の推移 >

(単位：円)



※1 100周年記念配当「2円」を含む ※2 2018年10月1日付で株式併合(5株→1株)を実施

トピックス

◆ 新事業提案コンテスト「T-Startup」を開催



- ① 新たな分野や領域における“**新規**成長”
- ② 既存分野で“**変革**成長”

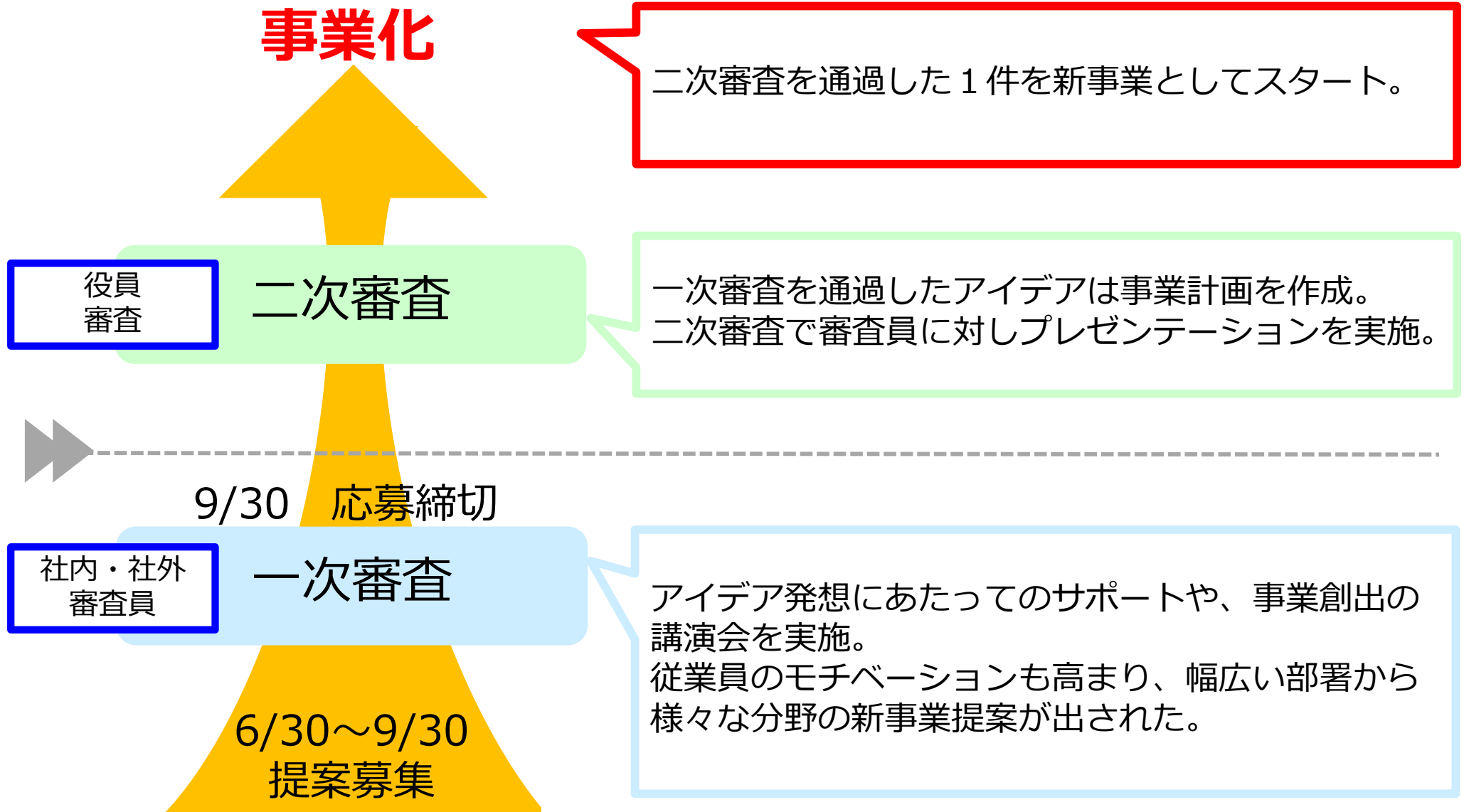


つばきが取り組むべき「3つの社会課題」の解決につながる提案を募集

11. 「T-Startup」

22

◆ 新事業提案コンテスト「T-Startup」を開催



☆ 3事業部 モノづくり無人化PJ

PJ主展開3事業部

- チェーン事業部
LinK2025
- モーションコントロール事業
Connect2025
- モビリティ事業部
MAC2025



◆ 事業部間を超えた「シナジーの創出」へ

【あるべき姿】

- TSUBAKI-モノづくりDXへ向けた
《現場革新のデジタル化》
- Factory-Automationへ向けた
《自動化・省人化》

～TSUBAKIの発展へ向けた事業部集結による取組み～

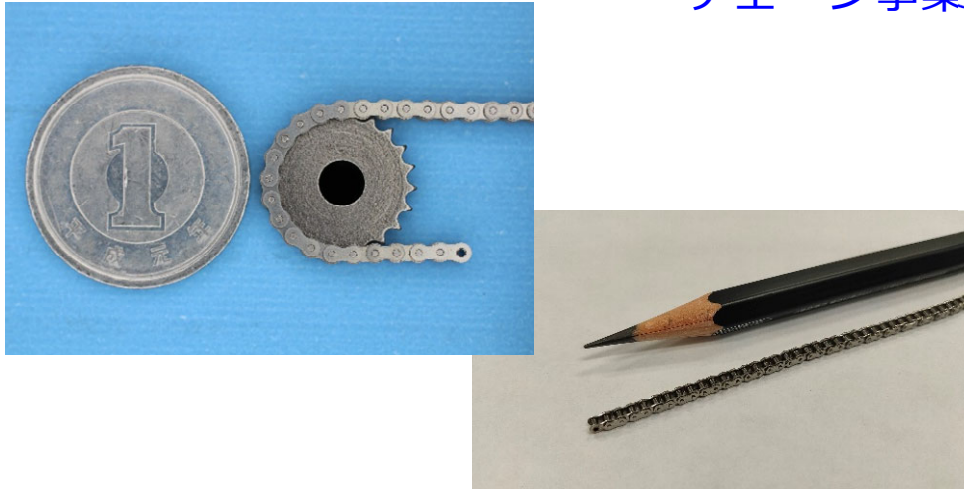
PJ主展開3事業部への**ヨコ串支援**

（マテハン事業部、研究開発センターDX技術課、情報システム部）

13. 各事業の取り組み（新商品）

25

チェーン事業



世界最小ピッチの動力伝動用チェーン
「RS®ローラチェーン（RS6）」

モビリティ事業



eBike用クラッチ

Unique cam design
for accurate &
efficient torque
transmission

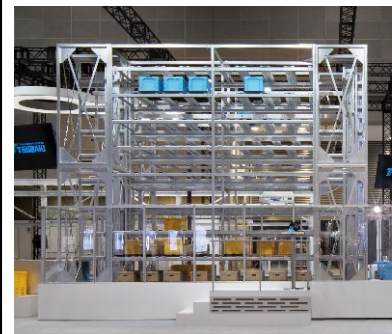
Improved rollers
reduce drag for a
smooth & quiet ride

モーションコントロール事業



DCブラシレスハイポイドモートルと
高度な速度制御を実現する専用ドライバ

マテハン事業



3次元走行台車による自動ピッキングシステム
「T- AstroX（アストロクス）」



超低温サンプル
自動保管システム

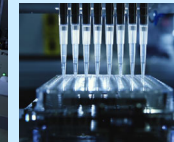
超低温保管技術の
進化・深化



オートメーション
技術の磨き上げ



PCR自動検査装置

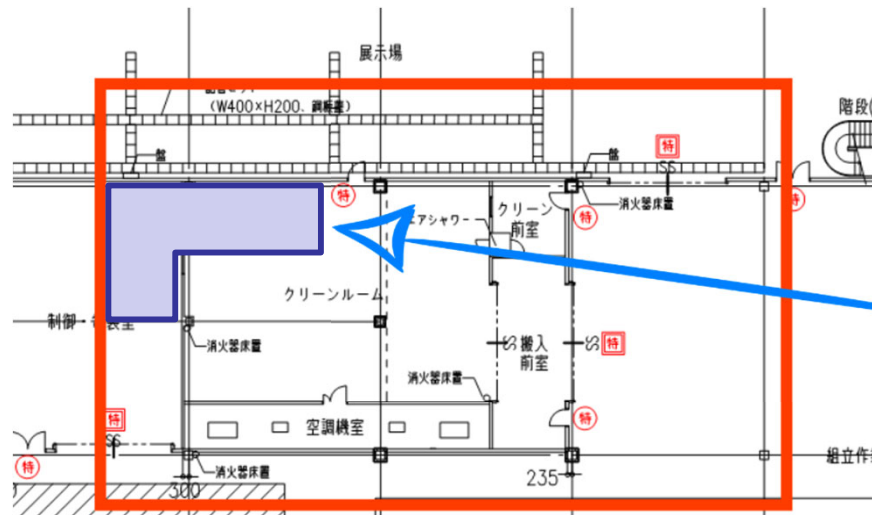


容器のハンドリングから
バイオプロセッシングへ



血漿/DNA自動抽出システム

必要なとき・必要なところに再生医療を届けることを目指し、
細胞や細胞由来製品の品質を維持するコールドチェーン・オートメーション技術を開発する



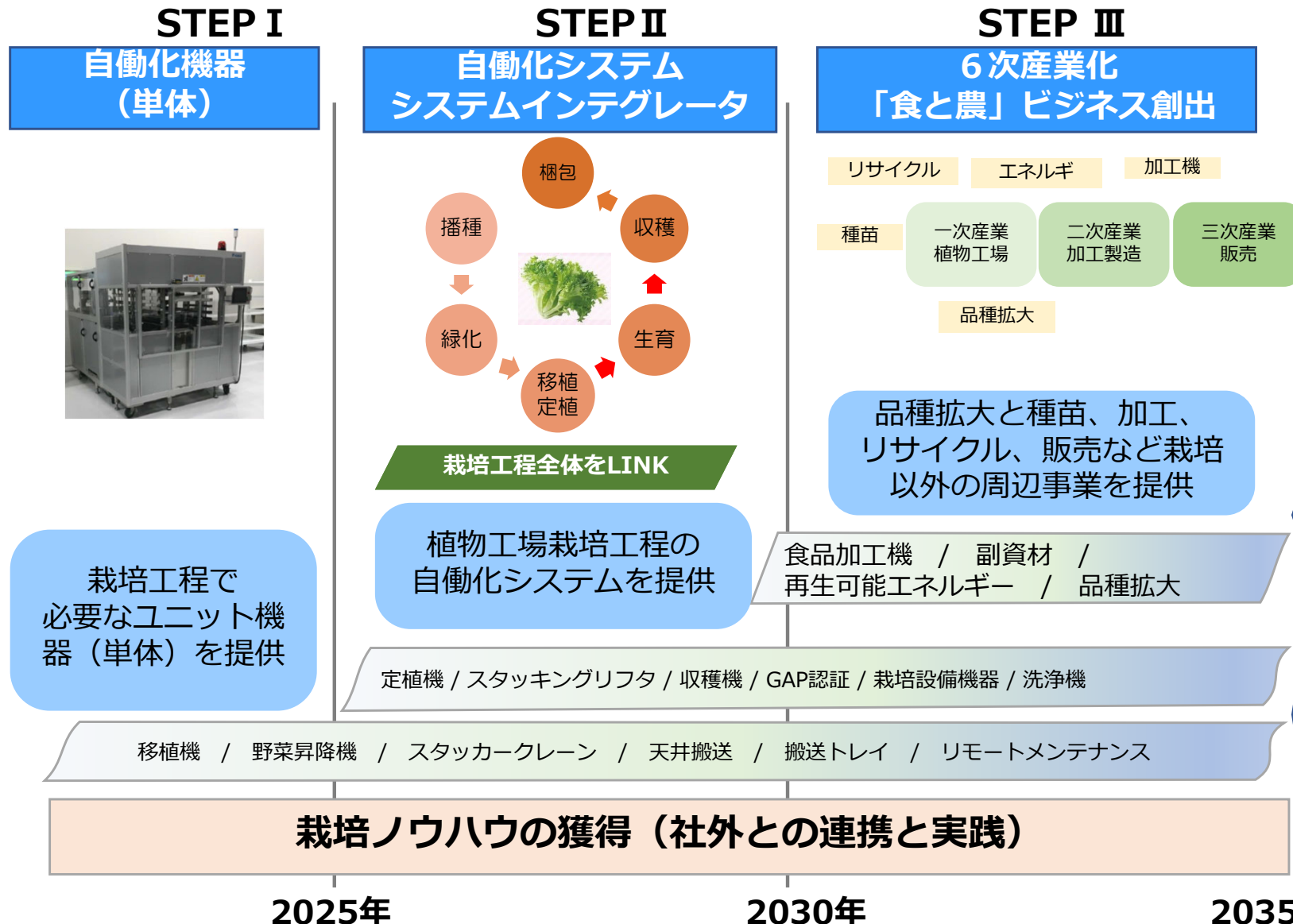
- 2021年10月：バイオ専門人材を採用、再生医療PJ発足
- 2022年12月：埼玉工場クリーンルーム内にラボを設置
⇒ **装置・システムのバイオ評価ができる体制を構築**



人工光型植物工場における事業拡大

新規植物工場事業者への価値提供

社内展開



安心安全な生活基盤の構築

13. 各事業の取り組み（PCSビジネス）

28

地球にやさしい
社会の創造

通信・制御・見える化技術により、情報とエネルギーを最適に動かすことで、カーボンニュートラル実現に向けた次世代エネルギー・社会システムの構築に貢献。

V2X対応充放電装置

eV LINK

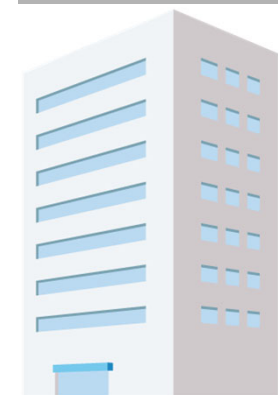
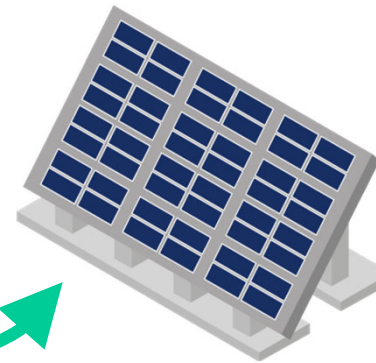
電動車バッテリー
への**充放電**が可能



Vehicle



連携



太陽光発電の有効活用

13. 各事業の取り組み（PCSビジネス）

29

「eLINK」ラインアップ

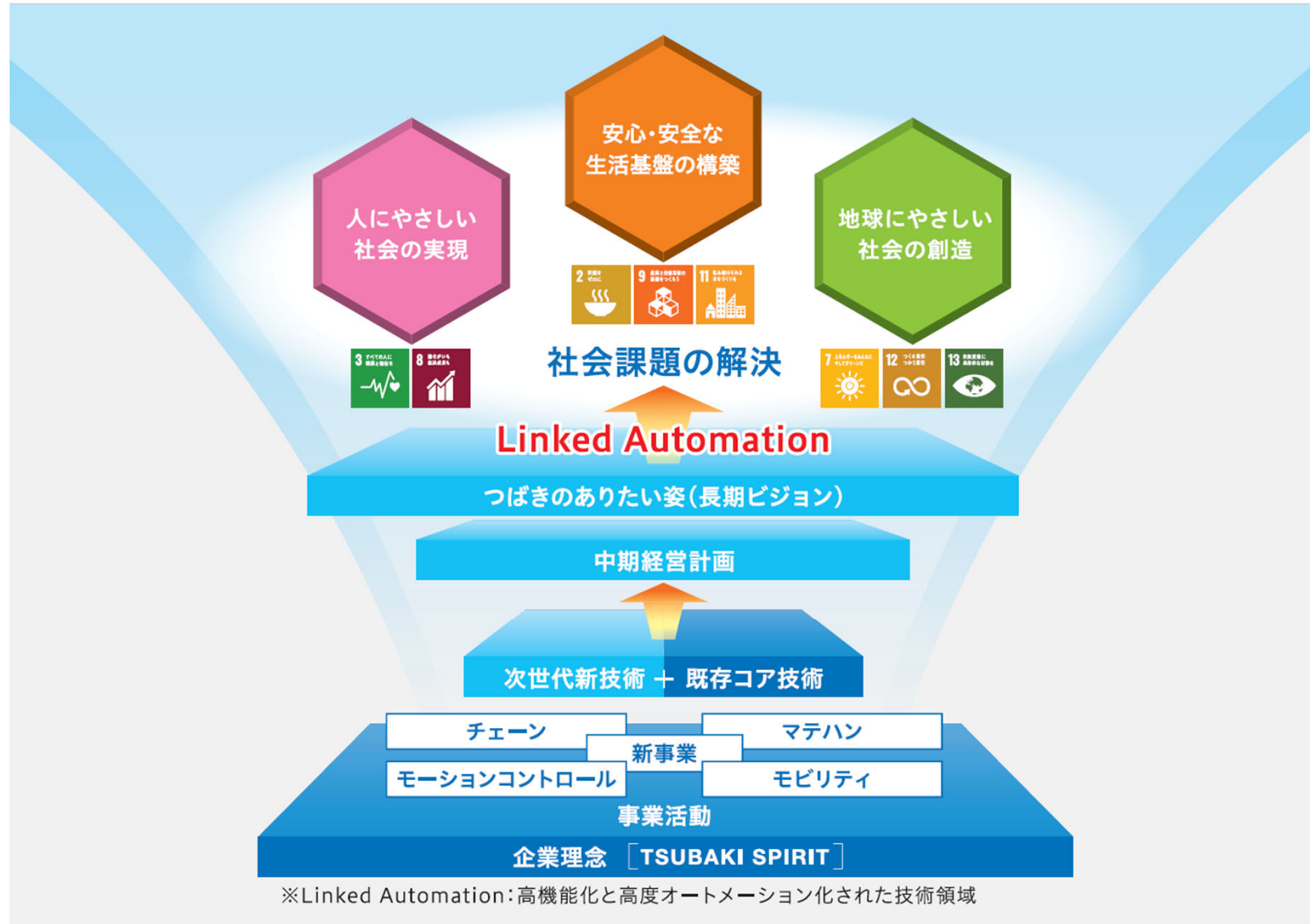


交流に変換して建物に供給



直流のまま接続して高効率

交流と直流の両方を持っているのが「つばき」の強み



本資料に記載している事業計画および業績予想等に関する記述は、資料作成時点において当社が入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績は、各種要因により、これらの業績予想とは異なる結果になり得ることをご承知おきください。